

1・16

再稼働阻止

フクシマ連帯

処分撤回

法大包围デモへ



昨年10月28日、法大包围デモ
福島大生も参加して打ち抜かれた

3・11から1周年 福島郡山集会

1月16日(月)、今年第1弾の法大包围デモを行います。スローガンは「原発再稼働阻止 - 野田政権打倒。フクシマ連帯。処分撤回 - 真理を奪う大学許すな」だ。昼休みに正門前広場に集合して、総長室がある九段校舎へと向かう。2012年、法大から学生の大行動を開始しよう。

- 「収束宣言」はデタラメだ。
野田政権による人殺しを許すな

第1に、1・16法大包围デモは原発再稼働阻止のデモだ。

12月16日に野田政権は「原発事故の収束宣言」を発表した。この「収束宣言」自体が、まったくのデタラメな内容だ。事故現場はいまだに大量の被曝者を出しながら、原子炉を冷やし続けなくてはならない。また、福島から避難を余儀なくされた10万人の県民は、帰宅のメドも立っていない。現実とかけ離れたウソの大宣伝だ。

その上、この「収束宣言」でもって、野田政権は現在の避難区域を再編成し、年間50mSV以下の地域を避難区域から除外した。放射能と共存しろということだ。福島県民に対しての「緩やかな殺人」行為そのものだ。同時に、原発の輸出にも踏み出している。

最も許せないのは、この「収束宣言」をうけて、原発の再稼働が進められようとしていることだ。愛媛県の伊方原発の3号機は再稼働に向けて動き出している。地元では、再稼働に向けて避難

全国の稼働原発6基の停止時期

～原発は
停まる、止められる～

泊原発3号機(北海道)
4月下旬停止

現在稼働している原発はたったの6基。九州や北陸、東北、中部地方では原発からの電気はありません。

柏崎刈羽原発5号機(新潟県)
1月下旬停止

柏崎刈羽原発6号機(新潟県)
3月停止

島根原発2号機(島根県)
1月下旬停止

高浜原発3号機(福井県)
2月下旬停止

伊方原発2号機(愛媛県)
1月13日停止

今年4月には全原発が停止!!

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 <http://www.zengakuren.jp/> mail_cn001@zengakuren.jp

訓練がやられるという。事故前提の再稼働なのだ。

原発再稼働のための「収束宣言」であり、政府が守りたいのは国民のいのちではなく原発の維持だということがはっきりした。野田政権には原発の他にも、大失業や増税、TPPといった超重大問題があるが、この原発再稼働問題一つで、即刻打倒されるべき政権だ。

1月11日の神戸地裁の裁判で、2006年の尼崎事故に対して、JR西の前社長・山崎正夫被告への無罪判決が出された。107名がJRによって殺された事件の判決が無罪とはまったく許しがたい話だ。原発にしる、JRにしる、安全や人の命よりも「金儲け」が優先される。こんな人殺しがまかり通る世の中は変えよう。

●「いのちが大事」
これがフクシマの声だ

第2に、1・16法大包围デモは、福島とつながるデモだ。
フクシマの怒りは、収まることなく燃え続けている。
経産省前では今日も「原発いらない福島の女たち」の座り込みが続いている。“いのちをはらむ、とつきとおかの座り込み”だ。横断幕には「女たちはお金よりも、いのちが大事」と宣言されている。彼女たちの要望内容は、東京電力管轄下のすべての原発の廃炉、東京電力に責任においての、避難と除染、被害者に対する完全な賠償、東京電力の手によって賠償のための基金創設、福島第一原発の現状について、常に真実を明らかにし公表を続けること、の5点だ。そのどれもが切実であり、同時に事故から10ヶ月たってもいまだにこのような要求を出さざるをえない状況に、今の福島はおかれているということだ。
先日、福島大生が法大門前にたって、マイクでアピールした。その内容は、青ジャージの弾圧職員と警備員に対して「お前たちのやっていることは、人殺しと同じだ」という鋭い弾劾だ。
原発に反対して声を挙げ、行動している学生に対して、ビデオを回して圧殺してくる。これが、原発推進派の姿でなくてなんだ。



「女は原発を選ばない！
いのちが大事！いのちを守る！」



10月31日、官邸前で「ベトナムへの原発輸出反対」の抗議行動。

福島で子どもたちを放射能から守ろうと必死で活動している親たちに対する敵対行為でなくてなんなのか。絶対に許すことはできない。
原発が建てられようとしていた当時も、反対運動をしていた人がいた。しかし、このような圧力で周り切り離されて、その結果日本に54基もの原発がつくられてきたのだ。学生に怒りの声を挙げさせない。これがいま法政大学で行われていることだ。
フクシマの怒りに連帯しよう。それは、この法政大学の学生支配と対決することだ。

●処分撤回が社会を変える第1歩

第3に、1・16法大包围デモは処分撤回のデモだ。
法政大学はこれまで、大学に対して声を挙げた学生に対して処分を連発してきた。その結果、つくり出されたのが今の法政大学の状況だ。ビラまき・立て看板規制にはじまり、監視カメラ、弾圧職員、警備員、飲酒規制…。その中で学生のエネルギーがどれだけそがれてきただろうか。
門前の演説を法大職員が盗撮する行為に、なにかひとつでも学生のためになることがあるのか。ビラを受け取ったら大学に目を付けられるという噂自体に学生の可能性を解放するものがあるのか。まったくない。
法大こそ、学生よりも金儲けを優先してきた大学だ。
非正規職・放射能・原発、社会の矛盾に声を挙げさせないための処分だ。この処分を法大生の力で撤回させることが、社会を変える第1歩だ。法大生が団結をすればまったく可能だ。
デモで法大生の団結を示そう。1・16法大包围デモに集まろう。

「再稼働阻止！全原発廃炉」に向けて、みんなで参加しよう！

3/11 福島県民集会

【要項】

3月11日（日）福島県郡山市開成山球場 東京からバスが出ます。

13:00～オープニングコンサート 15:00～デモ

2月11日は、東京で「さようなら原発集会」が開催されます。

13:15～オープニングコンサート 13:30～集会@代々木公園B地区ケヤキ広場